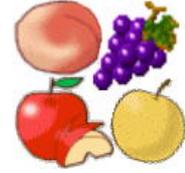


平成27年度 果樹情報 第13号

(平成27年9月17日)



福島県農林水産部農業振興課

1 気象概況 (9月前半：果樹研究所)

9月前半の平均気温は、1半旬が22.7℃、2半旬が19.6℃、3半旬が20.6℃で、各々平年より1.2℃、3.0℃、0.8℃低く、この期間の降水量は201.0mmで平年の254%でした。

2 生育状況 (果樹研究所)

(1) なし

ア 主要品種の収穫期と果実品質

「幸水」の収穫盛りは8月23日で平年より10日早く、「豊水」の収穫盛りは9月9日で平年より12日早い状況でした。

表1 なし主要品種の収穫期と果実品質

品種	収穫始(月/日)			収穫盛(月/日)			収穫終(月/日)			果実重(g)			糖度(° Brix)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
幸水	8/18	8/27	8/22	8/23	9/2	8/29	8/27	9/8	9/1	320	373	403	11.6	12.6	11.8
豊水	9/2	9/15	9/11	9/9	9/21	9/15	9/14	9/28	9/19	336	426	396	11.7	12.7	12.5
二十世紀	9/9	9/17	9/18	9/11	9/23	9/21	9/14	9/29	9/29	382	388	463	10.8	11.1	10.9
ワ・フランス	未	10/6	10/2	未	10/10	10/2	未	10/11	10/2	未	293	294	未	12.9	13.1

注) 平年値は、1981～2010年の平均値。未は未確定。

(2) りんご

ア 果実肥大 (品種：ふじ 9月15日現在 暦日比較)

縦径は74.2mmで平年比98%、横径が81.6mmで平年比99%で、平年並の生育となっています。

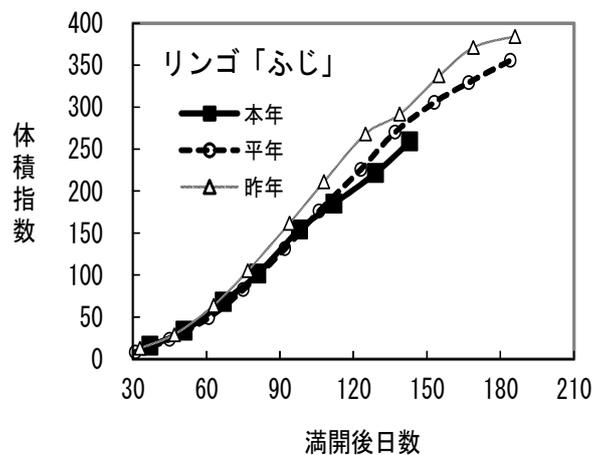


図1 りんごの果実肥大

イ 「ふじ」の裂果発生状況

9月10日現在（満開後138日）の「ふじ」／マルバ台樹の外部裂果率は5.4%で、昨年と同程度ですが、裂果発生率は18.9%で昨年より高い状況です。

表2 「ふじ」の裂果発生状況

調査樹	樹齢	外部裂果率(%)			裂果発生率(%)		
		本年	H26	H25	本年	H26	H25
ふじ/マルバ	50年生	5.4	5.9	14.3	18.9	13.7	34.7
ふじ/わい台	19年生	0.0	0.0	7.9	14.1	5.0	21.1

※ 調査規模:5～7樹の目通り付近から50果程度採取した。

※ 外部裂果率:つる割れ、浮皮等の割合、裂果発生率:外部裂果+内部裂果の割合

(3) ぶどう

ア 収穫期と果実品質

本年の「巨峰」（無核栽培）の収穫始めは、8月20日で平年より19日早く、収穫盛りは8月29日で平年より14日早い状況でした。

果実品質は、果房重、一粒重ともに平年より大きく、糖度は平年より低い状況でした。

表3 「巨峰」の収穫期

収穫始(月/日)			収穫盛(月/日)			収穫終(月/日)					
本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年			
8/20	9/8	9/2	8/29	9/12	9/8	9/2	9/18	9/16			
果房重(g)			1粒重(g)			糖度(Brix)			酒石酸(%)		
本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
602	335	282	13.4	10.5	8.3	16.0	19.5	19.7	0.53	0.50	0.59

※ 平年値:1998～2014年の平均値

東北地方1か月予報(仙台管区気象台 平成27年9月10日発表)

今後の気温の経過は、1週目（9月12日～9月18日）は平年並の確率が50%、2週目（9月19日～9月25日）は高い確率が50%、3～4週目（9月26日～10月9日）は高い及び平年並の確率が各々40%となっています。

※ 気象庁では「天気予報」以外にも下記の情報も発表しておりますので、これらも参考にして管理作業や防霜対策を進めましょう。

○ 季節予報

1か月間や3か月間といった期間全体の大まかな天候を3つの階級で予報しています。

URL: <http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/>

3 栽培上の留意点

(1) も も

ア 秋肥の施用

収穫後、9月のできるだけ早い時期に秋肥を施用し、樹勢の回復と貯蔵養分の蓄積に努めましょう。

また、秋肥は尿素等の速効性肥料を中心に、窒素成分で7kg/10a程度（あかつき：中肥沃度地帯の場合）を目安にしましょう。

なお、樹勢の低下がみられる樹では分肥し、窒素成分で秋肥を6～7割、春肥を3～4割の施用量を目安にしましょう。

イ 秋期せん定

9月中旬頃（徒長枝が太る前）を目安に秋期せん定を行いましょ。なお、本年は、新梢に二次伸長が見られるため、樹勢に応じた秋期せん定を心掛けましょ。

樹勢が強く徒長枝の発生が多い樹では、花芽の充実と樹勢の安定化、秋季防除時の薬液透過の改善を図ることを目的とし、樹冠内部の徒長枝のせん除を行いましょ。

適勢樹では、主枝や亜主枝の生育を妨げる徒長枝を整理し、樹勢の乱れを防ぎましょ。

弱勢樹では、秋期せん定は最小限とし、葉芽の多い中果枝や長果枝を多く配置し、樹勢の回復を図りましょ。若木では適勢樹と同様の方法で実施ましょ。

(2) な し

ア 「あきづき」の収穫

「あきづき」は、日本ナシ地色用カラーチャートで、地色指数3.5～4の果実が品質面で優れると考えらますので、これに準じて収穫を実施ましょ。

なお、地色指数が4を越えると糖度は向上しますが、硬度が低下し食感も低下しますので、収穫の遅れには十分注意ましょ。

(3) りんご

ア 中生品種の収穫前管理と収穫

落果防止剤の散布、着色管理及び収穫等の作業が遅れないようにましょ。

収穫に当たっては、食味（果肉硬度、デンプンの消失程度等）や地色の推移に注意し、適期収穫に努めましょ。

イ 「ふじ」の栽培管理

摘葉を9月下旬頃から実施する場合は、1回目は果実に直接触れている果そう葉等を中心に軽く行い（3～4枚）、10月中旬頃に玉回しと併せて、再度強めに行いましょ。

(4) ぶどう

ア 秋肥の施用

収穫後の9月中旬頃は、秋根が活発に伸びる時期で養分吸収も盛んになりますので、積極的に秋肥を施用し、貯蔵養分の蓄積を促しましょ。

施用に当たっては、尿素等の速効性肥料を用い、窒素成分で2kg/10a（年間施肥量の3割程度）を目安とし、新梢の停止状況と登熟程度、葉色等を観察して施用する量を増減ましょ。

なお、樹勢が強い場合や葉色が濃く、遅伸びしている新梢が多い場合は、秋肥の施用は控えましょ。

4 病害虫防除上の留意点

(1) 病 害

ア ももせん孔細菌病

現在の発生量は平年並となっておりますが、大雨や台風等の影響により、感染、発病が拡大するおそれがありますので、秋期防除を確実に実施し、越冬菌密度の低減を図りましょう。

イ りんごの各種病害

9月中旬以降、降雨によって湿度が高い状態が続くと、褐斑病、すす点病、すす斑病の発生が助長されますので、薬剤散布により対策を講じましょう。

また、炭疽病が見られる場合は、今後、二次感染により発生が拡大するおそれがありますので、罹病果は見つけ次第速やかに除去しましょう。

ウ なし黒星病

「豊水」の収穫後に2回目の秋期防除を実施し、園内の病原菌密度の低減を図りましょう。
なお、薬剤散布の際は、翌年の結果枝となる予備枝の先端部まで、薬液が十分に到達するよう心掛けましょう。

(2) 虫 害

ア コスカシバ

本種による被害がみられたもも園では、収穫後（9月中旬～下旬）、樹幹部及び主枝に対して、登録のある薬剤を丁寧に散布しましょう。

イ クワコナカイガラムシ

発生がみられた園では、9月下旬頃までに、樹にバンド誘殺の資材（ダンボール紙、麻布等）を設置しましょう。

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL : <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7339
(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL : <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>

ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL : <http://www.new-fukushima.jp/>